

MONEX Retail Investor Survey



MONEX 個人投資家サーベイ 2013年2月調査

マネックス証券株式会社
www.monex.co.jp

個人投資家の皆様の相場環境に対する意識調査のため、2013年2月15日～2月18日にマネックス証券に口座をお持ちのお客様向けにアンケートを実施しました。ご回答くださった皆様には、ご協力に感謝いたします。誠にありがとうございます。今、個人投資家の皆様が、相場をどのようにとらえているのか、調査結果をまとめました。

「MONEX 個人投資家サーベイ」は、個人投資家の相場環境に対する意識調査として毎月アンケートを行い、その調査結果をまとめたものです。2009年10月に第1回サーベイを行い、月次で公表しております。

(※2011年3月は東日本大震災の状況を鑑み、アンケートを実施しておりません。)

また、2011年6月より、グループ企業であるトレードステーション証券（米国）、マネックス BOOM 証券（香港）の個人投資家の皆様にも、四半期ごとに同様のアンケートを行い、調査結果を「MONEX グローバル投資家サーベイ」として提供しております。

■ 調査結果の要約

(1) DIはまちまちでいずれも小動きにとどまる (グラフ 1)

【日本株 DI】(2013 年 1 月) 73 → (2013 年 2 月) 67 (-6)

【米国株 DI】(2013 年 1 月) 52 → (2013 年 2 月) 53 (+1)

【中国株 DI】(2013 年 1 月) -16 → (2013 年 2 月) -20 (-4)

2 月に入り日経平均の上昇ペースに一服感も出るなか日本株 DI は小幅に下落した。米国株 DI はほぼ変わらず。中国株 DI は 3 ヶ月続いた上昇が途切れた。(※DI:「上昇すると思う」と回答した%から「下落すると思う」と回答した%を引いたポイント)

(2) 首位の「自動車」は変わらず、「銀行」が健闘 (グラフ 4)

個人投資家が「魅力的であると思う業種」ランキングでは、「自動車」が首位を維持。「ハイテク」、「機械」、「海運」が順位を落とし、「銀行」、「鉄鋼」、「石油関連」が順位を上げた。

(3) 今後 3 ヶ月程度の米ドル／円相場の見通しは円安派がやや後退 (グラフ 5)

今後 3 ヶ月程度の米ドル／円相場の見通しについて、「円安になると思う」との回答は前回から 9 ポイント低下した。2 月の初旬から円相場が概ね横ばいで推移していることを反映した。

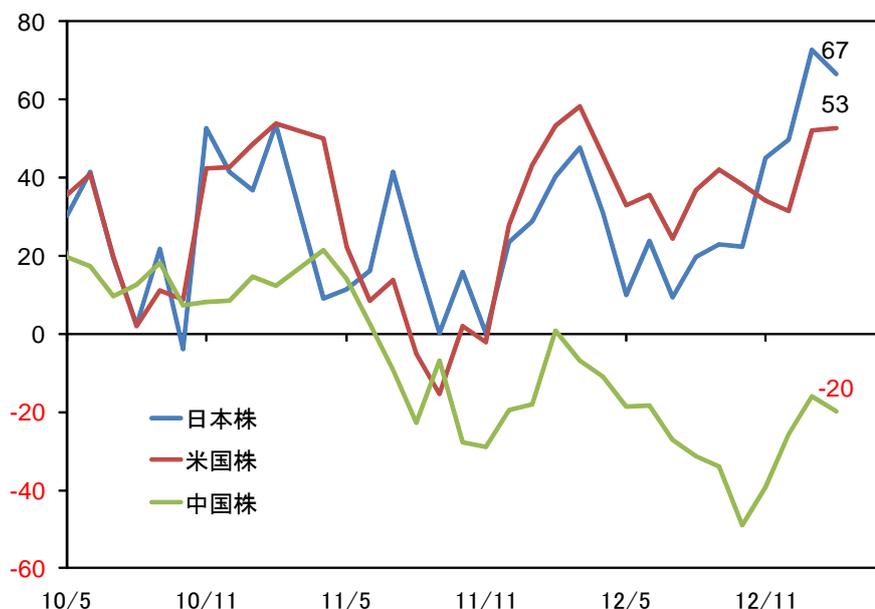
(4) バブルを懸念する向きは少数派 (グラフ 8、9)

アベノミクスでバブルは起きるかとの問いには 45%が「起きない」と回答。「起きる」とした 24%を大きく上回った。また、バブルを「悪いことだと思う」との回答は約 4 分の 1 にとどまり、総じてバブルに対する懸念は大きくはないことを示唆する結果となった。

■ 調査結果

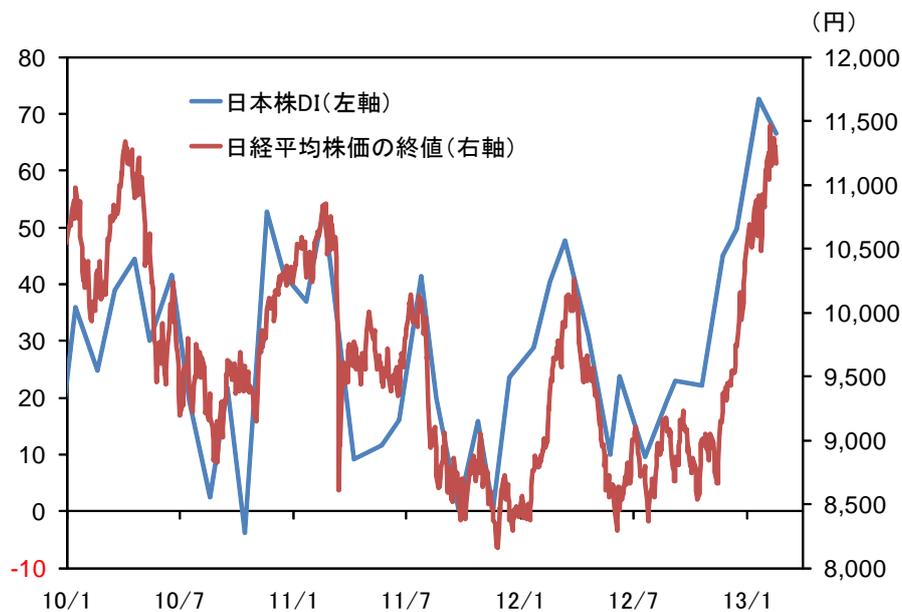
1. 株式市場を取り巻く環境について

グラフ1: 今後3ヶ月程度の株価予想



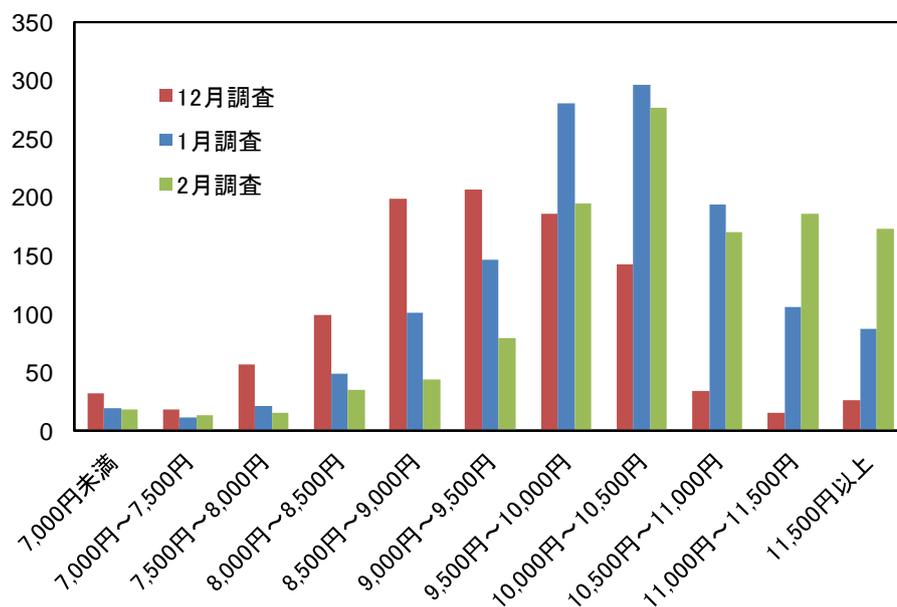
(出所) マネックス証券作成

グラフ2: 日経平均株価(終値)と日本株DIの推移



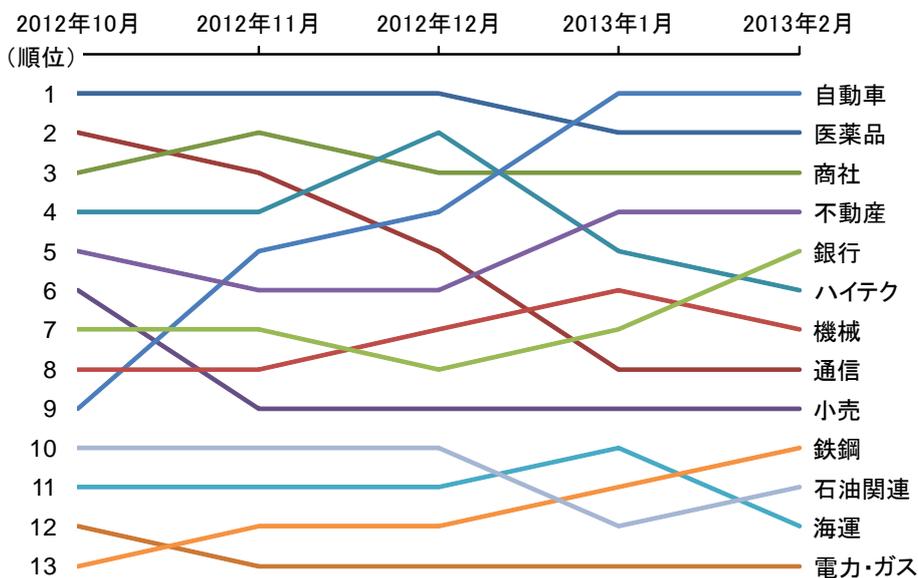
(出所) マネックス証券作成

グラフ3: 日本株を買いいたい水準



(出所) マネックス証券作成

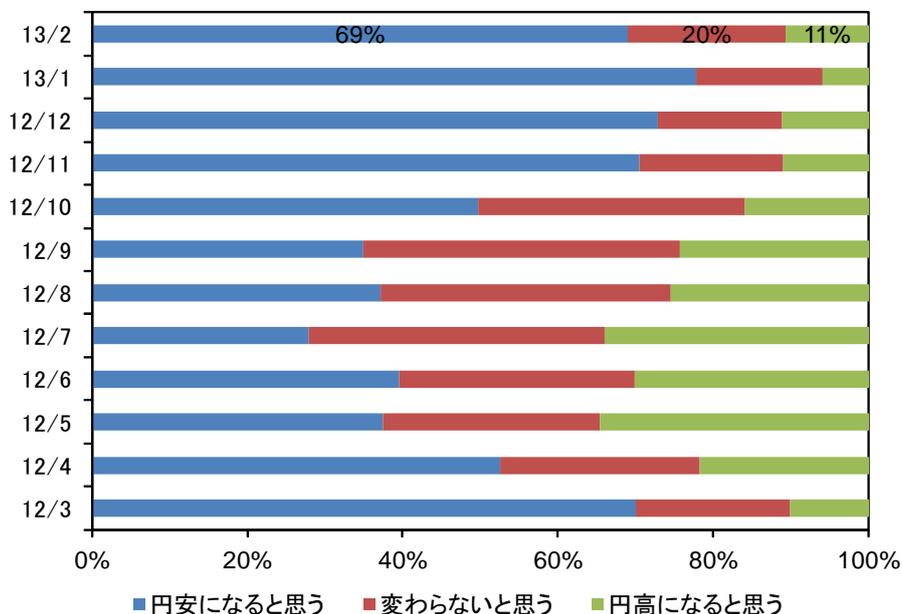
グラフ4: 日本市場各業種に対する今後3ヶ月程度の見通し



(出所) マネックス証券作成

2. 為替市場について

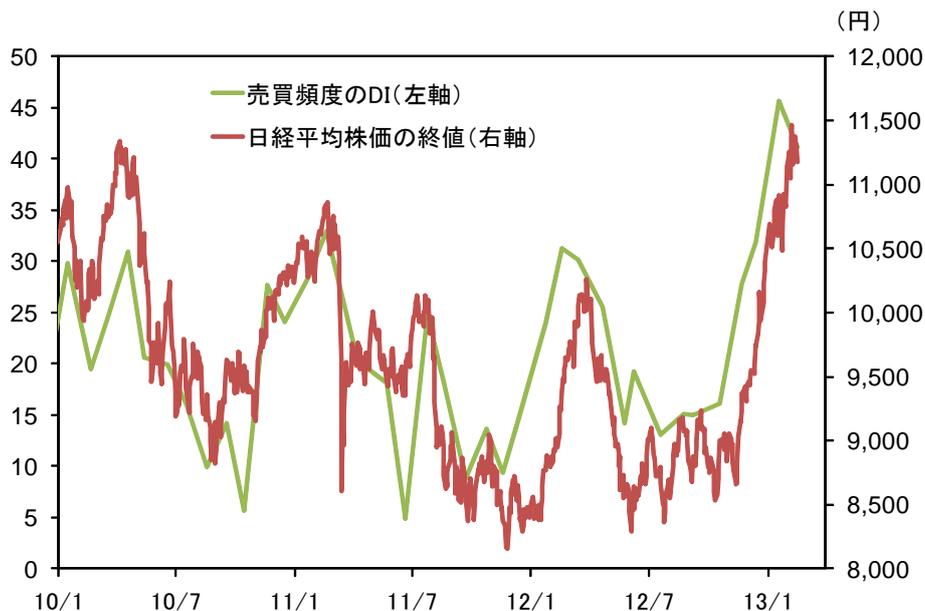
グラフ5: 今後3ヶ月程度の米ドル／円相場予想



(出所) マネックス証券作成

3. お客様の日本株取引について

グラフ6: 今後3ヶ月の投資意欲について



(出所) マネックス証券作成

4. 注目するトピック

グラフ7: 注目するトピック

	日本	米国	欧州	中国 (香港含む)	新興国 (中国除く)
企業業績	80.6%	39.3%	13.5%	9.9%	11.7%
マクロ経済	55.6%	51.2%	27.7%	18.7%	18.7%
為替動向	71.0%	55.7%	32.8%	7.4%	14.0%
金利動向	60.3%	36.9%	23.8%	7.1%	10.4%
金融政策	75.6%	43.5%	29.5%	10.9%	9.2%
政治・外交	67.8%	47.8%	27.4%	42.0%	18.8%

(出所) マネックス証券作成



(数字は各地域で当該選択肢にチェックを入れた回答者の割合)

前回 (2013年1月調査)

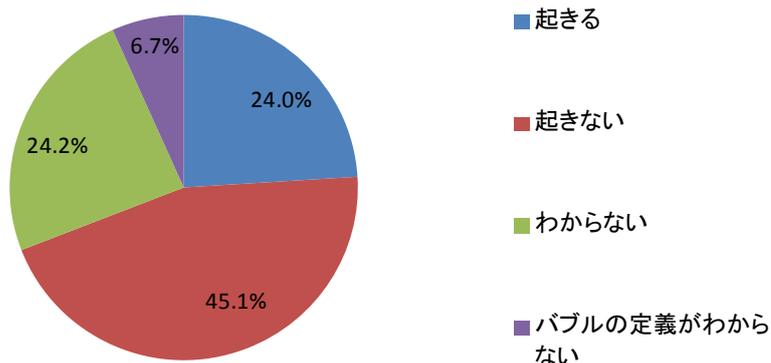
グラフ7: 注目するトピック

	日本	米国	欧州	中国 (香港含む)	新興国 (中国除く)
企業業績	81.9%	38.0%	12.3%	11.9%	10.9%
マクロ経済	54.4%	51.0%	25.5%	21.4%	17.6%
為替動向	71.1%	59.1%	32.9%	6.9%	13.8%
金利動向	64.0%	39.5%	23.2%	6.0%	9.5%
金融政策	78.8%	47.3%	30.9%	11.1%	7.5%
政治・外交	74.3%	47.9%	27.0%	40.2%	19.2%

(出所) マネックス証券作成

5. アベノミクスとバブル

グラフ8: アベノミクスでバブルは起きると思いますか



(出所) マネックス証券作成

「起きる」理由

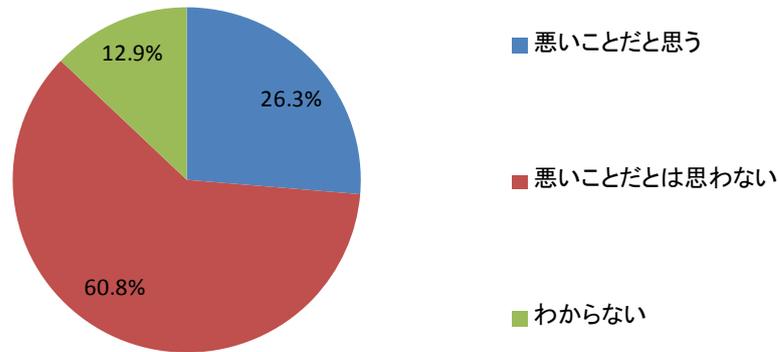
- 「大量のお金が世の中に供給される形になるから」
- 「現在も期待値だけでこれだけ株価が上昇しているので、材料が出てきっかけがあれば、バブルに突入すると思う。」
- 「実際すでに起きている。景気が良くなっていないのに、株価が上がっているから。」
- 「財政規律など守れるわけないから」
- 「1985年ごろと似ている」
- 「ITバブル以降10年近くバブルがないからそろそろかと」
- 「望む人が多いから」

「起きない」理由

- 「同じ過ちを繰り返さないよう日本人は学習したと思う。」
- 「バブルを経験した人が、まだ経済の中心にいるので、同じ轍は踏まないと思う。」
- 「バブルが起きるほど景気回復しない。」
- 「バブル前に増税でしばむ」
- 「お金を刷ったからと言って、市場供給量が一気に増えるとは思えない。」
- 「日銀の通貨量のコントロールがしっかりしていると思う。」

など

グラフ9: バブルは悪いことだと思いますか



(出所)マネックス証券作成

「悪いことだと思う」理由

- 「その後の景気の落ち込みがひどくなる」
- 「経済の実体と相場がかい離して、適切な投資を妨げるから。」
- 「真面目に働く人が損をする。資産家だけが良い思いをする。」
- 「庶民は耐えられない。儲かる人は資産を持つ人のわずかにすぎない。」
- 「貧富の差が激しくなる」
- 「特に高齢者にとっては、手持ちの預貯金の価値が大幅に目減りする。(株、不動産などに投資する気もない、先がないから)」
- 「企業努力が得られず、進歩がない」

「悪いことだとは思わない」理由

- 「収益の機会が増えるから。」
- 「リスクもあるが、ジリ貧よりは良いと思うから」
- 「現在のような不景気が浮き沈みがなく続くぐらいなら、好景気と不景気の波があったほうが良いのではないかと思ってしまう。」
- 「リスクヘッジをきちんとしておけばいいと思う。」
- 「バブルは資本主義の必然だと思うので、行き過ぎるのも相場と思う。」
- 「景気が上向き、日本の借金も実質的に減るため。」
- 「お金を貯め込んでいる人に適度な緊張感を与えることは、経済を適度に活性化させると考えております。」

など

■総括（マネックス証券 チーフ・ストラテジスト 広木 隆）

昨年11月の衆院解散宣言から始まった上昇相場も3カ月以上経つ。相場の世界では「小回り3カ月」と言われ、そろそろ一巡感が出てもおかしくないころだ。日経平均は今月上旬にリーマンショック後の高値を抜き、達成感もある。但し、一本調子で上げてきた相場だけに、買い遅れている投資家も多く、押し目買い意欲は旺盛だから市場全体が大きく下げることはないだろう。日経平均のチャートを見ると、1月は1万500円から1万1千円のレンジで約1カ月もみ合った。1月末に1万1千円台に乗せてからは、1万1千円台前半のレンジ内でのみ合いが続いている。少しずつ上昇ペースが鈍くなるのは仕方ないところだろう。

そうした状況を反映して相場の先行きを問うDIは先月に比べ若干低下した。それでも依然高水準にあることには変わらない。

今回のサーベイでは「アベノミクスでバブルは起きると思いますか？」と尋ねた。週刊誌や書店に並ぶ「煽り系」の投資本には「アベノミクス・バブルに乗り遅れるな！」とか「安倍バブル崩壊でハイパーインフレ」など過激な表現が目立つ。そうしたメディアの論調がどの程度、個人に影響を与えているのかを知りたかった。

結果は「5.アベノミクスとバブル」に掲載した通りだが、個人投資家の多くが「バブルは来ない」と回答している。いくらメディアが煽っても個人投資家は冷静である。

バブルの定義は定かでないが、筆者は「実態価値（ファンダメンタルズ）から極端に市場価格が乖離すること」がバブルだと考える。そうすると今は期待先行で株価が上がっているが、予想PERなどの観点からはまだ十分に説明のつく範囲。今後、円安や世界景気の回復などで業績が改善し、それに平仄を合わせた株価上昇が続くならば、それはバブルではない。

バブルが起きない理由で目に付いたのは「日本人はバブルとその崩壊を経験し、十分学習したから」というのがあったが、それには同意しかねる。

「人は歴史の教訓から多くを学ばないものであり、そのことこそ歴史が教える一番重要な教訓である」（オルダス・ハックスリー）

南海泡沫事件以来、何度となく世界中で繰り返されてきた、この悲喜劇を、ここで改めて列挙する必要もないだろう。

今回も皆様のご協力により有益な調査結果を得ることができました。皆様の資産運用を考える一助となれば幸いです。

（マネックス証券 チーフ・ストラテジスト 広木 隆）

■調査の概要と回答者の属性

調査方式： インターネット調査
 調査対象： マネックス証券に口座を保有している個人投資家
 回答数： 1,270 件
 調査期間： 2013年2月15日～2月18日

【性別】

男性	女性
84.8%	15.2%

【年齢】

未成年	20代	30代	40代	50代	60代	70歳超
0.2%	3.9%	20.9%	32.0%	20.8%	15.8%	6.2%

【金融資産】

500万未満	500万 ～1000万	1000万 ～2000万	2000万 ～5000万	5000万 ～1億	1億以上
27.3%	21.7%	21.1%	18.9%	8.5%	2.4%

【売買頻度】

デイトレ	週に数回	月に数回	数ヶ月に1回	それより少ない
5.6%	16.5%	30.0%	26.5%	21.4%

【株式投資のご経験】

1年未満	1年～5年	5年～10年	10年以上
6.9%	20.8%	29.1%	43.1%

本情報は当社が実施したアンケートに基づいて作成したものです。

- ・ 本情報は売買のタイミング等を反映したものではありません。
- ・ 当社は記載した銘柄の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・ 当社は本情報の内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・ 銘柄選択や売買タイミングなどの投資にかかる最終決定は、お客さまご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

マネックス証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会